

埋文よこはま27

- ・泉警察遺跡の調査
- ・ノシチリ博士のこれは〇〇じゃ！
- ・「横浜の遺跡展」開催記



竪穴住居跡（J9号）の床面からつぶれた状態で出土した土器。見事な文様が描かれている。

いずみ けい さつ い せき 泉警察遺跡の調査

一境川流域における
縄文時代中期環状集落—

横浜市泉区は横浜市の南西部に位置しています。このあたりは多摩丘陵から相模野台地へと移り変わるところで、広くひらけた低平な台地上に遺跡が点在しています。泉警察遺跡もその遺跡のひとつで、平成2年度に現在の泉警察署建物の建設に伴った調査が行われました。また平成9・15年度には道路建設に伴って隣接地が調査され、のべ約2,300㎡が発掘されました。その結果、縄文時代中期末（約4700～4600年前）の環状集落かんじょうしゅうらくが姿を現したのです。

→次頁へつづく

◆環状集落の中心部が発掘された

泉警察遺跡は泉区和泉町に所在しています。警察署や道路建設のために発掘されたため、集落の一部の発掘となりましたが、縄文時代の竪穴住居跡62軒、土坑（穴）86基がみつかりました。右図は調査区の平面図ですが、これらの分布から、発掘した場所が縄文集落の中心部だということがわかります。なぜ、これだけの発掘で、集落のどの部分なのかわかるのでしょうか？実は縄文時代の定型化した集落は、「環状集落」と言って、広場を中心に建物を同心円状に配置することがわかっています。そして、墓は中心の広場につくるのです。右図の赤色で示した土坑群は形状や出土品から墓穴と考えられ、竪穴住居跡に囲まれた広場に分布しています。こうしたことから、この範囲が環状集落の中心部だということがわかるのです。

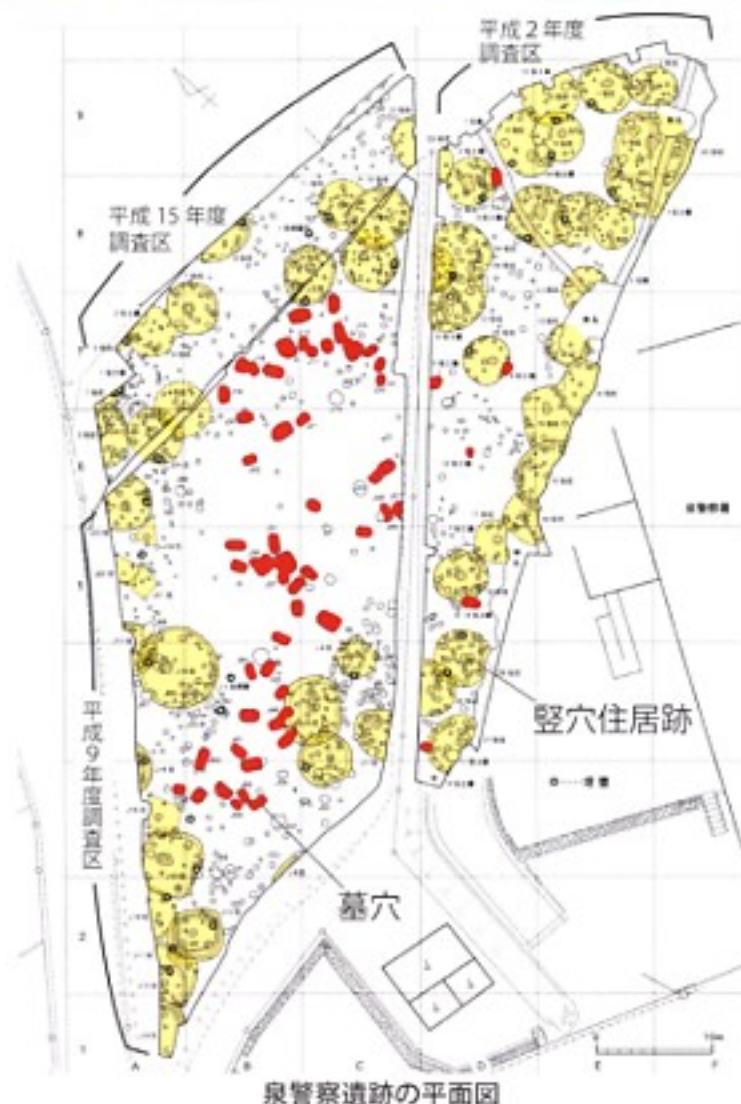
見つかった竪穴住居跡のほとんどは「加曾利EⅢ式土器」と呼ばれる土器を出土し、縄文時代中期末頃に比定できます。未発掘部分も含めると、集落の直径は推定で110m以上、面積は10,000㎡、住居数は100軒以上に達するとみられ、横浜市を代表する環状集落のひとつとすることができます。



泉警察遺跡の近景（平成9年度）



見つかった竪穴住居跡（J5号住居跡）
中央の赤い部分が炉



泉警察遺跡の平面図



参考：都筑区神隠丸山遺跡の環状集落

都筑区の神隠丸山遺跡は縄文時代の環状集落を全掘した好例です。この遺跡では中期の環状集落（上図緑色）と後期の環状集落（上図黄色）がずれながらも、一つの遺跡で両方確認できた事例です。やはり中心の広場に墓穴をつくっており、墓を集落の外につくる弥生時代以降のあり方とは、墓に対する観念が根本的に異なっていると考えられます。



墓穴から出土した土器（J4号土坑）

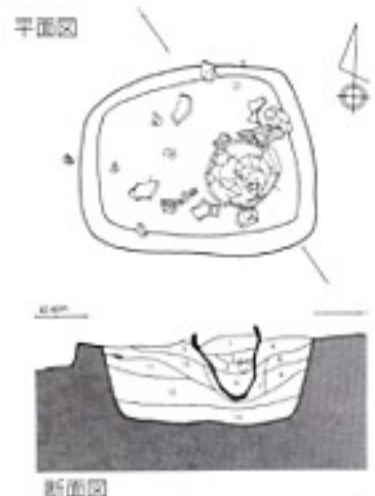


J61号土坑の
土器出土状況

◆土器の出土の仕方あれこれ

泉警察遺跡では縄文土器が様々な出土の仕方を行っています。左上の写真は墓穴から伏せた状態で出土しました。このような土器は被葬者の頭部にかぶせられていたと考えられています。住居に関わるものとしては、床面から割れて出土するものや、炉に埋め込まれて出土するもの、さらには「埋瘞」といって、住居入り口部などに埋め据えられるものがあります。これは胎盤（胞衣）を入れて、よく人に踏まれることによって子供がよく育つことを祈願した民俗例と同様な習俗としても説明されています。右上の写真と右図は墓穴をいったん埋めたのち、改めて完全な形の土器を墓上に埋め据えている事例です。稀に見かけるもので、幼くして亡くなった子供を埋葬したのかもしれません。

このように土器の出土の仕方を調べることによって、縄文人の様々な習俗について考えることができます。



墓穴の上から土器が出土した例
（J61号土坑）



埋瘞として使用された土器
（J20号住居跡出土、高さ約36cm）



墓穴の上に埋納された土器
（J61号土坑出土、高さ約45cm）

これは〇〇じゃ！

ぼうすいしゃ
～「紡錘車」編～

ノシチノ博士

「紡錘車」とは、昔の人が、^{せんい}繊維に^よ撚りをかけて糸を紡ぐのに使った道具じゃ。土製（粘土を焼いたもの）あるいは石製・鉄製の円板状のもので、軸の中ほどに固定し、回転させることで糸を^{つむ}紡ぐんじゃ。紡錘車が重すぎると糸が切れ、軽すぎると回転がすぐ止まってしまうので、重さの加減が重要じゃ！

粘土で形作って焼いたもの（土製）
（矢崎山遺跡：古墳時代）土器片を再加工したもの
（権田原遺跡：弥生時代）石をけずったもの
（権田原遺跡：平安時代）矢崎山遺跡出土石製紡錘車
（古墳時代）
底に星のような模様がある

むかしの人たちはこれで糸をつくってたんじゃあ！
糸をつくるどころからだから、服一着つくるの時間かかるねえ！



マイコ

横浜の遺跡展「縄文時代中期の横浜」開催記

去る12月8日～1月14日にかけて、横浜市歴史博物館にて、縄文時代中期をテーマとした展示を開催しました。当埋蔵文化財センターの収蔵品の中から、とくに選りすぐった中期縄文土器100点以上を年代順にズラリと並べました。圧巻の展示を前に、見学に来館された方々はしばし足を止めるだけでなく、じっくりメモをとっている人も…。開催した側としてはたまらなくうれしい光景です。同時に展示した黒曜石の原産地推定に関する分析も好評で、関連講演会も盛会のうちに終わることができました。講師の建石徹先生（文化庁）、お疲れ様でした！



「埋文よこはま」は横浜市域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

埋蔵文化財センターのご案内

JR根岸線「港南台」駅

2番バス乗り場より神奈中バス港36・86系統「上郷ネオポリス」行き、または港40系統「栄プール」行き、「上郷ネオポリス」下車 徒歩1分

京浜急行「金沢八景」駅

国道沿い1番乗り場より神奈中バス金24・25系統「上郷ネオポリス」行き、終点「上郷ネオポリス」下車 徒歩1分

- ・見学等の施設利用は、平日の9～17時となっています（受付16時まで）。
- ・施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。

埋文よこはま27

発行日 2013年2月20日

編集・発行 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター

〒247-0024 横浜市栄区野七里2-3-1

TEL. 045-890-1155

FAX. 045-891-1551